

江戸時代の朝鮮通信使と 日本文人の交流

地域共創学部
観光学科
教授

石川 泰成



研究シーズの紹介

- 本研究は、江戸時代に来日した朝鮮通信使と日本文人の文化交流や思想分野の交流を取り上げたものです。
- 九州、山口県では、対馬、福岡新宮町相島、北九州市小倉、山口県下関市、上関町など朝鮮通信使の停泊地での文化交流は、その筆談記録や漢詩の唱和集などを教育活動、例えば教育委員会が先人伝記や国際交流の漫画に編集することで小中学生の副読本にすることができます。
- また今後人文観光学の観点から、観光地の資源として、展覧会の特集、展示などに利用することが可能です。



高度な歴史研究

- 将来のリーダーを育成する教育システムを構築する。
- 全国の交流地点を観光化する効果があります。

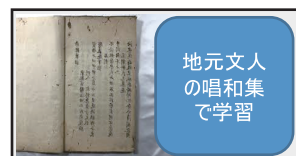


期待される活用シーン

- 地元の先人・偉人研究の副読本はできないか？
(教育委員会、図書館)



地元の江戸時代の漢詩人や文人たちの知的行動と生涯を副読本にする



地元文人
の唱和集
で学習

- 観光地の博物館、歴史館での特別展のテーマにならないか？



ユネスコ世界記憶遺産、日韓友好の特別展などの素材になる



2011年京
都文化博物
館の展示展
の例

その他の研究テーマ

香椎宮の近代の歴史